プログラム

11 月 16 日（土） A 会場 大ホール（じゅうろくプラザ 2F）

15:00 ～ 16:00 **市民公開講座** 座長 : 田邊 俊一郎 先生

インプラント治療の真実

講師：永原 國央 先生 （朝日大学歯学部口腔病態医療学講座 インプラント学分野教授）

16:45 ～ 17:00 **開会式**

17:00 ～ 18:30 **専門医教育講座** 座長 : 堀田 康記 先生

「インプラント治療における全身管理について」

－口腔インプラント手術を安全に行うための義務と緊急時に最低限すべきこと－

講師：見崎 徹 先生 （日本大学歯学部歯科麻酔学 准教授）

18:40 ～ 19:00 **中部支部総会**

11 月 17 日 (日)　A 会場 大ホール（じゅうろくプラザ 2F）

9:30 ～ 11:00　**専門歯科衛生士教育講座**　座長 : 永原 國央 先生

インプラント治療における全身疾患と全身管理を考える
講師：堀川 正 先生（堀川歯科診療所、九州インプラント研究会）

11:30 ～ 12:30　**教育講演**　座長 : 村上 弘 先生

すべては光機能化へ。デンタルインプラント、整形インプラント、骨造成、心臓再生まで
講師：小川 隆広 先生（UCLA 歯学部先端補綴学・ワイントロープセンター 終身教授
骨・インプラントサイエンス研究チーム (LBIS) ディレクター）

13:40 ～ 15:00　**特別講演**　座長 : 田邊 俊一郎 先生

Predictable treatment of Peri-implantitis
by using the Erbium Laser Micro-Explosion
講師：山本 敦彦 先生（日本レーザー歯学会 理事）

15:10 ～ 15:20　**閉会式**

11 月 17 日 (日)　B 会場 中会議室（じゅうろくプラザ 5F）

9:00 ～ 9:30　**一般口演 I**　座長 : 梶本 忠保 先生

B-1　歯科用コーンビーム CT におけるボクセル値の安定性
内藤　宗孝，相宮　秀俊，泉　雅浩，有地　榮一郎
愛知学院大学歯学部歯科放射線学講座

B-2　CBCT を用いた骨密度の測定とインプラント埋入時のドリリング感覚との関係
相宮　秀俊，内藤　宗孝，有地　榮一郎
愛知学院大学歯科放射線学講座

B-3　透過 X 線エネルギー分析による歯科インプラントの同定
福井　達真[1)]，勝又　明敏[2)]，岩崎　ひとみ[1)]，横矢　隆二[1)]，藤原　周[1)]
朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野[1)]，朝日大学歯学部口腔病態医療学講座歯科放射線学分野[2)]

9:40 ～ 10:10　**一般口演 III**　座長 : 伊藤 幸司 先生

B-4　舌下腺窩が著しく発達した患者に対してインプラント治療を施した 1 症例
福田　隆光 , 山村　卓生 , 片木　鉱樹 , 有馬　良輔 , 安藤　雅康
中部インプラントアカデミー

B-5　上顎中切歯欠損部にカスタムヒーリングアバットメントを使用して抜歯後即時でインプラントを埋入した症例
大谷　昌[1)]，小笠原　一行[2)]，三木　通英[3)]，近藤　かな子[4)]，堀田　康記[4)]
愛知インプラントセンター 近畿・北陸支部[1)]，九州インプラント研究会[2)]，岡山大学インプラント科[3)]
愛知インプラントセンター中部支部[4)]

B-6　下顎両側臼歯部欠損に対しインプラント治療を行い 22 年経過した 1 症例
鈴木　孝彰，吉野　耕司，山口　勝史，杉山　直美，堀田　康記
愛知インプラントセンター

10:20 ～ 10:40　一般口演Ⅵ　座長 : 安藤 雅康 先生

B-7　インプラント体埋入施術時における静脈内鎮静法のシステム化
－ミダゾラムの口腔粘膜注射鎮静法ソフトの臨床応用－
小森谷　亮[1)]，阿久津　透一[2)]，上西　研二[3)]，吉田　恒[3)]，入江　靖雄[2) 4)]
日本歯科先端技術研究所 東北・北海道支部[1)]，日本歯科先端技術研究所 関東・甲信越支部[2)]
口腔インプラント生涯研修センター 近畿・北陸支部[3)]，口腔インプラント生涯研修センター 関東・甲信越支部[4)]

B-8　インプラント体埋入手術時における静脈内鎮静法のシステム化
－バイタルサインと鎮静剤投与状況の 1 元管理 -
阿久津　透一[1)]，小森谷　亮[2)]，玉置　忠宏[3)]，村上　文彦[3)]，入江　靖雄[1) 4)]
日本歯科先端技術研究所 関東・甲信越支部[1)]，日本歯科先端技術研究所 東北・北海道支部[2)]
口腔インプラント生涯研修センター 中部支部[3)]，口腔インプラント生涯研修センター 関東・甲信越支部[4)]

12:40 ～ 13:30　ランチョンセミナー　共催 : OSSTEM JAPAN

より、はやく、安全な、上顎洞へのアプローチ
講師：金山 健夫 先生（名古屋市立大学 歯科口腔外科 助教授）

13:40 ～ 15:10　専門歯科技工士教育講座　座長 : 山田 雅夫 先生

スマートなインプラント歯科技工士を目視して
講師：堀尾 浩彦 先生（オリオンクリエイティブデンタルラボラトリー インプラント専門歯科技工士）

11 月 17 日（日）　C 会場 研修室 1（じゅうろくプラザ 4F）

9:00 ～ 9:20　一般口演Ⅱ　座長 : 栗田 賢一 先生

C-1　上顎洞底を避けインプラント体を傾斜埋入し最終上部構造物装着後 5 年以上良好に経過している一症例
高橋　潤[1)]，近藤　雄三[1)]，野洌　大[1)]，松井　孝介[2)]，永原　國央[1)]
朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科[1)]，朝日大学歯学部歯科補綴学分野[2)]

C-2　上顎洞底挙上術に Concentrated Growth Factors を用いたインプラント治療の 1 例
犬飼　丈晴，片桐　渉，大杉　将嗣，日比　英晴，上田　実
名古屋大学医学部附属病院

9:30 ～ 9:50　一般口演Ⅳ　座長 : 杉田 基 先生

C-3　当大学病院の口腔インプラント診療部における初診患者について
村上　弘，八木　麗奈，杉浦　俊彦，澤　明男，鈴木　明
愛知学院大学

C-4　アジスロマイシン長期投与による抗菌治療の効果
鈴木　龍，高瀬　直樹，竹内　克豊，山下　泰寛，岩田　盛満
口腔インプラント生涯研修センター

9:50 ～ 10:10 **一般口演Ⅴ** **座長：前田 初彦 先生**

C-5 大気圧プラズマ処理したインプラントへのヒト脱落乳歯幹細胞培養上清の応用
大森　正裕[1)]，土屋　周平[1)]，黒田　健介[2)]，日比　英晴[1)]，上田　実[1)]
名古屋大学大学院医学系研究科 頭頸部・感覚器外科学講座 顎顔面外科学[1)]，名古屋大学エコトピア科学研究所[2)]

C-6 硝酸カリウムによるセラミック修復強化に関する実験的研究
宇野　光乗[1)]，岡　俊男[1)]，倉知　正和[1)]，石神　元[1)]，永原　國央[2)]
朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野[1)]，朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野[2)]

10:20 ～ 10:40 **一般口演Ⅶ** **座長：日比 英晴 先生**

C-7 装着後 15 年経過した上顎無歯顎術者可撤式フルブリッジを修理した 1 症例
渡邊　佑太，神野　正人，井上　貴詞，野原　栄二，堀田　康記
愛知インプラントセンター

C-8 重度の臼歯部顎堤萎縮と咬合崩壊を生じた患者に対してインプラント治療を行った 1 症例
斉藤　貴司，鈴木　孝彰，近藤　雅浩，宮野　貴彦，堀田　康記
愛知インプラントセンター 中部支部

12:40 ～ 13:30 **ランチョンセミナー** **共催：ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社**

Evidence -based implant overdenture ～ロケーターアタッチメントの基礎と臨床
講師：中居 伸行先生（なかい歯科 御所南ほてつインプラントセンター 院長）

11 月 17 日（日） D 会場 研修室 1（じゅうろくプラザ 4F）

10:40 ～ 11:30 **ハンズオン** **共催：OSSTEM JAPAN**

早期機能回復を考慮した Sinus elevation と、Narrow ridge などの、advance case への対応（SA-surface ,ESSET　kit、CAS Kit 、光機能化などを使用）
講師：宮崎 尚先生（奈良県 宮崎歯科医院）

特別講演・教育講演
専門医教育講座
専門歯科衛生士教育講座
専門歯科技工士教育講座

特別講演　11月17日（日）13:40 ～ 15:00　A会場　座長：田邊　俊一郎 先生

Predictable treatment of Peri-implantitis
by using the Erbium Laser Micro-Explosion

日本レーザー歯学会 理事　山本　敦彦 先生

教育講演　11月17日（日）11:30 ～ 12:30　A会場　座長：村上　弘 先生

すべては光機能化へ。デンタルインプラント、整形インプラント、骨造成、心臓再生まで

UCLA 歯学部先端補綴学・ワイントロープセンター 終身教授
骨・インプラントサイエンス研究チーム (LBIS) ディレクター　小川　隆広 先生

専門医教育講座　11月16日（土）17:00 ～ 18:30　A会場　座長：堀田　康記 先生

「インプラント治療における全身管理について」
－口腔インプラント手術を安全に行うための義務と緊急時に最低限すべきこと－

日本大学歯学部歯科麻酔学 准教授　見崎　徹 先生

専門歯科衛生士教育講座　11月17日（日）9:30 ～ 11:00　A会場　座長：永原　國史 先生

インプラント治療における全身疾患と全身管理を考える

堀川歯科診療所、九州インプラント研究会　堀川　正 先生

専門歯科技工士教育講座　11月17日（日）13:40 ～ 15:10　B会場　座長：山田雅夫 先生

スマートなインプラント歯科技工士を目視して

オリオンクリエイティブデンタルラボラトリー
インプラント専門歯科技工士　堀尾　浩彦 先生

特別講演

日本レーザー歯学会
理事 **山本　敦彦**

Predictable treatment of Peri-implantitis
by using the Erbium Laser Micro-Explosion

インプラント治療がペリインプランタイティスを起こす可能性があり現在使用されている治療法のいずれも効果的であるとは言えない。汚染されたタイユナイトのような表面を治療するのはほぼ不可能でありしかしその治療方法を開発することが必要不可欠である。

そこで我々は、1、Er:yag レーザーを用いて TiUnite ®層を蒸散剥離するための適切な照射条件の選定、2、E:yag laser 照射によるインプラント体の温度上昇変化についての実験、3Er:yag レーザーの microexplosion（水小爆発）を用いた汚染された TiUnite ®層蒸散剥離後のインプラント表面に対するオッセオインテグレーション獲得の有無を検証のための動物実験をおこなった その結果、E:yag laser は酸化チタン層を均等に剥がすことにとても効果的であり 注水下で使用することにより 照射されたインプラントの温度上昇の抑制、それにより周囲の骨組織に温度上昇によるダメージを押さえることができ、蒸散剥離した面にもオッセオインテグレーションを得ることが確認された。さらに臨床応用も行ない有用な結果を得た。したがってこの方法はペリオンプランタイティスの治療に効果的であると示唆された。

略　歴

1984 年 岐阜歯科大学卒業

1986 年 藤沢台山本歯科 開業

医療法人 成仁会 藤沢台 山本歯科 理事長

Perio- Implant Hospital AUTIS（アウティス）院長

JIADS ペリオインプラント アドバンス、講師

朝日大学歯学部非常勤講師

日本レーザー歯学会 理事

医学博士（近畿大学医学部 形成外科）

［所属学会］

American Academy of Periodontology (USA)　International　Member

Academy of Osseo-integration (USA)　Active Member

OJ

日本臨床歯周病学会会員

日本口腔インプラント学会会員

日本レーザー歯学会（理事）認定医、指導医

国際歯科レーザー学会 正会員

Er:YAG レーザー臨床研究会 委員

教育講演

UCLA 歯学部先端補綴学・ワイントロープセンター 終身教授
骨・インプラントサイエンス研究チーム (LBIS) ディレクター

小川　隆広

すべては光機能化へ。
デンタルインプラント、整形インプラント、骨造成、心臓再生まで

近年発見されたチタンの生物学的老化（バイオロジカルエイジング）とそれを克服するための光機能化技術の開発の成功は世界中に大きな衝撃を与え、インプラント治療は歴史的な転機を迎えました。チタンのエイジングの発見によって、現状では、「いつもすべての患者に同等な能力のインプラントが提供できているかどうか?」を問う大きな懸念が露呈されました。光機能化技術は、そのエイジングしたインプラントを元の状態まで回復させ、骨結合能をこれまでにないレベルに向上させることが実証されています。また、これまでの表面技術と異なり、チタンインプラントであれば、テストされたサーフェスすべて、種類を問わず骨結合能を大きく増加させることが示されています。つまり、インプラントの世界標準化を可能にする技術です。この技術は、国内外で多くのメディアに取り上げられ、それに対する大きな期待が一般国民レベルにまで広まりつつあります。また、ヨーロッパの国家教育指導要綱に明記されました。今回は、骨結合の加速や強化のみならず、インプラント周囲の軟組織の付着、辺縁骨の安定性、予後に関する多くの所見や臨床エビデンス、さらには、デンタルインプラントを越えて、整形インプラント、骨や他の組織の再生医療への応用にいたるまで、様々な光機能化の効果をお話します。そして、光機能化により影響をうける世界情勢をアップデートし、インプラントは新時代に入っていることをお伝えできればと思っています。

略　歴

インプラントの光機能化ならびに生物学的研究の世界的権威。2010 年、歯科で最も権威のある学術賞の一つである William J. Gies 賞を米国ならびに国際歯科研究学会 IADR より授与。2011 年、米国補綴学会 ACP より、補綴医療・科学の発展への最大の貢献を讃えられ、日本人初の最高学術賞の栄誉。さらに、2012 年、インプラント分野で最も権威のある学術賞の一つ William R. Laney 最高科学論文賞受賞を Academy of Osseointegration より受賞。インプラント、再生医療、生体材料、補綴学、口腔機能学の分野で、原著論文約 140 本を含む総出版数は 400 以上、獲得インパクトファクター 400 以上。2008 年、日本の学術科学の新生をめざし、口腔先端応用医科学研究会 AAASOM を創設、現在、会長を務める。その他、IADR 補綴部門会長、ACP 米国歯科補綴学会の学術担当などを歴任。同氏の光技術を応用したインプラントの活性化、つまり光機能化に関する研究成果は、日本でも広く国民レベルにまで報道され、すでに臨床応用が展開されている。その他、歯科の臨床、学術、科学に関する様々な啓蒙活動･情報発信を行っている。人物像、学術･研究活動は、ウィキペディア、朝日新聞「あの人とこんな話」、「味の手帳」、「医療新世紀」（共同通信）、週刊朝日別冊、小学館ジャパンナレッジ「話題の人物 Who's Who」、フジサンケイビジネスアイなど、広く国内有名メディアでも紹介。

専門医教育講座

日本大学歯学部歯科麻酔学 准教授

准教授 **見崎　徹**

インプラント治療における全身管理について
－口腔インプラント手術を安全に行うための義務と緊急時に最低限すべきこと－

2007 年 4 月の医療法の改正以来、全ての歯科医療機関に対して医療安全、緊急時の対応、医療機器・薬剤の保守管理、感染対策などの項目について具体的な取り決めがなされ、歯科医師の為すべき義務が明確化されました。

一方、高齢者・有病者の増加と共に歯科治療の対象となる患者にも様々な医科疾患があることから、初診時の医療面接（問診）の重要性が増しています w。特にインプラント手術を行う予定の患者に対してはより詳細な聞き取り、確認が大切で、既往歴、手術歴、家族歴、基礎疾患（医科疾患）名、服用薬剤、臨床検査成績、アレルギーの有無、自己管理の認識と現況などについてカルテに記載する義務があります。その結果、初診時にバイタルサイン（血圧、脈拍、経皮的動脈血酸素飽和度、呼吸、体温など）を測定・記録して、必要に応じて文書（診療情報提供書）で主治医に対診（紹介・照会）する必要があります。

手術に際しては出来る限りストレスを少なくすべく環境を整えて、精神鎮静法を併用することを原則とすることが望ましいと考えています。

精神鎮静法には亜酸化窒素（笑気）吸入鎮静法と静脈内鎮静法がありますが、亜酸化窒素吸入鎮静法は全ての歯科医院で応用しうる有用な鎮静法で、鎮静に伴う術後の合併症も殆どありません。

一方、静脈内鎮静法は極めて有用な鎮静法ですが、一定（歯科麻酔認定医）以上の知識・技術・経験などを必要とするため、開業歯科医院単独では実施が困難な場合が多いと思われます。特に有病者に対して静脈内鎮静法を併用してインプラント手術を行う場合には術者と全身管理を担当する者は別である必要があります。また、術後にも様々な合併症が危惧されるために配慮が必要です。

以上の項目について解説することで、今後のインプラント手術が患者にとってより安全、快適に手術が受けられるようになることが私の願いです。

さらに、インプラント手術も緊急時の対応もスタッフ全員の協力のもとに実施されることであることから、スタッフの方々の参加も歓迎致します。

略　歴

氏名：見崎　徹

生年月日：昭和 25 年（1950 年）12 月 1 日　静岡県富士宮市生

（1）学歴

昭和 50 年 3 月 31 日　日本大学歯学部卒業

昭和 54 年 3 月 31 日　日本大学大学院歯学研究科修了（口腔外科学専攻）

（2）免許・資格

歯学博士

日本歯科麻酔学会歯科麻酔指導医・専門医・認定医

日本歯科心身医学会指導医・認定医

日本障害者歯科学会指導医・認定医

日本有病者歯科医療学会指導医・認定医

日本口腔インプラント学会基礎系指導医

AHA（アメリカ心臓協会）認定 BLS 2010 ヘルスケアプロバイダー

AHA 認定 ACLS 2010 プロバイダー

（3）職歴

昭和 54 年　4 月　1 日　日本大学助手 歯学部口腔外科学教室

昭和 59 年　4 月　1 日　東京医科歯科大学歯学部歯科麻酔学教室

昭和 60 年　9 月 15 日　都立清瀬小児病院麻酔科

昭和 62 年　1 月　1 日　駿河台日本大学病院麻酔科

平成　1 年　4 月　1 日　日本大学歯学部歯科麻酔学講座

平成　2 年 12 月　1 日　国立がんセンター麻酔科

平成 17 年　2 月　1 日　独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院麻酔科

平成 19 年　4 月　1 日　日本大学准教授

平成 19 年 10 月　1 日　日本大学歯学部付属歯科病院歯科麻酔科科長

（4）主な学会活動

日本歯科麻酔学会評議員

日本歯科心身医学会理事・評議員

日本老年歯科医学会評議員

日本障害者歯科学会評議員

日本有病者歯科医療学会理事・評議員、安全医療管理委員会委員長

日本歯科薬物療法学会評議員

日本歯科医史学会理事・評議員

（5）主な研究テーマ

1．麻酔関連薬剤の体内動態（中枢における作用機序）

2．脳虚血に関する研究

3．全静脈〔内〕麻酔に関する研究

4．疼痛の評価法に関する研究

5．歯科治療〔口腔外科手術〕時の全身管理、特に静脈内鎮静法について

6．医療事故に対する救急救命処置

専門歯科衛生士教育講座

堀川歯科診療所、九州インプラント研究会

堀川　正

インプラント治療における全身疾患と全身管理を考える

歯科治療とくに局所麻酔下に行う歯科小手術は、医療者が考える以上に患者さんに緊張や痛みを与えます。極度の緊張や痛みは、自律神経のバランスを崩し、意図しない異常すなわち偶発症を引き起こす事が分かっています。インプラント治療は臓器機能が低下し複数の合併疾患を持った中高年を対象とする割合が多く、特に注意が必要です。

偶発症には神経性ショックや過換気症候群など比較的軽度なものから高血圧、脳血管障害、虚血性心疾患、糖尿病などの成人病の増悪やアレルギーなど、重症なショックに陥る危険性のあるものまで様々なものがあります。重症例の頻度は多くはありませんが、いつ発生するか分かりませんので日頃から備えておく事が不可欠です。

インプラント治療は病気のない組織にメスを入れるという点で病気を治すための一般的な外科処置とは一線を隔する行為です。より良い結果が求められる一方で、患者さんを危険にさらすような事態は極力避けなければなりません。

偶発症を完全に防ぐことは出来ませんが、なぜ、どの様な原因で発生するのかその傾向を知る事で発生数を少なくしたり、万が一発生した時には迅速で的確に対応する事で重症化を防ぐことは可能です。

今回、生命維持の仕組みについて基本的な知識を整理し、続いて全身管理を行うための問診やバイタルサインについて触れ、さらに遭遇頻度の高い合併疾患と注意点および偶発症が発生した時の対処法について具体的事例を交えてお話ししたいと思います。

これらの事をしっかりと理解した上で、日々の診療を行う事が出来れば、より安心して診療出来るようになります。患者さんもきっと敏感にこの事を感じ、安心して治療を受けられるはずです。

もちろん偶発症が起こった時、歯科衛生士の皆さんが判断し処置する訳ではありませんが、偶発症発生時は一刻を争う事が多く、先生一人では対処できませんので、医療スタッフが総力を挙げ迅速に対処することが必要です。

本日のお話しを参考に、偶発症を正しく知って、自信を持ってインプラント治療などに関われる衛生士さんにステップアップして頂ければ幸いに思います

略　歴

1991 年 3 月　　東京歯科大学卒業

1991 年 4 月～　佐賀医科大学 歯科口腔外科学教室勤務

1994 年 4 月～　堀川歯科診療所勤務 現在に至る

専門歯科技工士教育講座

オリオンクリエイティブデンタルラボラトリー
中部支部　インプラント専門歯科技工士
堀尾　浩彦

スマートなインプラント歯科技工士を目視して

歯科医院を訪れた患者さんがインプラント治療を希望される理由として、最新の技術にて長期的に安定した咬合と審美性を獲得することが考えられます。また一方でインプラント治療に際しての安全性と信頼性も求められていることも事実です。このような昨今、歯科医院、病院はCTを活用して、事前診断及びそのデータを元にしたインプラントプランニングすることが標準化して来ています。そして手術中使用されるサージカルガイドは樹脂を用いた3Dプリンターで作られる時代となり、より安全な治療システムが構築されて来ています。

また歯科用CTは一般の歯科医院にも普及しつつあります。3次元的な口腔内デジタルデータは低被爆ながら高画質であり、そのデータは病院との連携や患者さんへのインフォームドコンセントに大変有利です。顎関節など映すことできことから、下顎位の適正な位置を確認でき、咬合高経を新たに設定する場合に大変有益です。

インプラント歯科技工士へのニーズは上部構造体の精度、審美性、安定性が求められています。最近メインテナンスの重要性から、術者可撤式のスクリューリテイニング法が見直されています。この場合設計の変更においては、取り扱うパーツの変更や製作方法が変わり、順応性が要求されます。患者さんのCTデータによる診断、上部構造体の設計はコデンタルスタッフの一員として大変重要です。またカスタムアバットメント、高強度ジルコニアによるインプラントブリッジなどの上部構造体の設計やCAD/CAMの操作などの臨床枠の幅も広がっています。

今回 改めて口腔インプラント技工の基本を見直したいと思います。歯科医療チームの一員としての役割と認識を高めつつ、順応性のある「スマートなインプラント技工士」を皆さんとイメージし実現したいと思います。

略　歴

昭和 36 年　1961　　愛知県　出身

昭和 56 年　1981　　愛知学院大学歯科技工専門学校卒業　歯科技工士免許取得

昭和 56 年　1981 ～ 1986　　NT デンタルラボラトリー入社　勤務

1986　　オーストラリア　メルボルン　オメガセラミックス社　入社

1990　　オーストラリア　ビクトリア州　歯科技工士免許　取得

APEX Porcelain Dental Studio 開業　　Australia

1994　　日本 帰国

1994　　オリオンクリエイティブデンタルラボラトリー 名古屋開業

2000　　スタディーグループ JDI 主宰

2003　　韓国 四延大学 歯科理工学会 発表

2013　　現在に至る

財 日本歯科技工士会 認定講師　歴任

株 クロスフィールド社　　Captek　インストラクター 歴任

株 ジーシー社　　グラディア　インストラクター 歴任

現

日本歯科技工士学会　会員

日本口腔インプラント学会　会員　中部支部

インプラント専門歯科技工士

スタディーグループ JDI 会長

一般口演

一般口演Ⅰ	11月17日（日） 9：00～ 9：30 B会場
一般口演Ⅱ	11月17日（日） 9：00～ 9：20 C会場
一般口演Ⅲ	11月17日（日） 9：40～10：10 B会場
一般口演Ⅳ	11月17日（日） 9：30～ 9：50 C会場
一般口演Ⅴ	11月17日（日） 9：50～10：10 C会場
一般口演Ⅵ	11月17日（日）10：20～10：40 B会場
一般口演Ⅶ	11月17日（日）10：20～10：40 C会場